

小田原市教育委員会協議会会議録

1 日時 平成20年7月29日(火)午後7時27分～午後7時52分

場所 小田原市役所 601会議室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 青木秀夫 (教育長)

3番委員 桑原妙子

4番委員 安藤實英 (教育委員長)

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

学校教育部長 和田 豊

生涯学習部長 清水 清

生涯学習部次長・生涯学習政策課長事務取扱 時田 光章

教育政策課長 曾我 勉

学校教育課長 柳下 正祐

教職員担当課長 西村 泰和

課長補佐兼指導主事・指導担当主査事務取扱 長澤 貴

(事務局)

教育政策課課長補佐・教育政策担当主査事務取扱 座間 亮

教育政策課上級主査 望月 啓一郎

4 議事

(1) 報告事項

片浦中学校のあり方について(教育政策課)

小田原市社会教育委員会議からの提言書の提出について(生涯学習政策課)

5 議事の概要

(1) 報告事項

片浦中学校のあり方について（教育政策課）

教育政策課長...報告事項 「片浦中学校のあり方について」御報告させていただきます。

資料1をご覧ください。片浦中学校のあり方については、昨年来何回かにわたり、状況や経過等についてご報告させていただきました。現在は、本年1月に発足した「小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会」において、議論を重ねているところですが、概ね皆さん方の意見の方向性が見えてきており、来月には提言書をいただける段階になりましたので、経過についてご報告いたします。

以前にもご説明させていただきましたが、この問題については、昨年9月に片浦中学校へ入学する予定の10名のお子さんのうち8名が私立中学校や通学区域の弾力化により他の公立中学校へ進学するという連絡を受けたことに始まりました。早速、現状を把握するとともに、学校関係者、教育委員会、地域関係者で意見交換して、片浦地区の子どもたちにとって最も望ましい中学校のあり方について、協議し、検討を進めてきました。片浦中学の問題について、地域の皆さんと考えていくにあたり、教育委員会として「子どもの幸せを第一に考える。」「地域の意見を最大限尊重する。」という2つの基本方針で臨んできました。これまでの検討経過については、資料の「3 経過」にあります。片浦4会場での住民説明会や保護者あてアンケート調査の実施、中学生生徒への意見・要望調査などを実施し、あり方を考える委員会で議論を重ねてまいりました。この間、あり方を考える委員の皆様には、地域の方々と様々な場面でいろいろとご議論をいただきました。あり方を考える委員会では、現在教育を受ける子どもたちのことを第一に考えるべきということで、議論を進めてきましたが、主な意見を紹介します。

現在の小学6年生は、18名と近年では比較的多い人数ですが、最近のアンケート調査では、他の生徒の動向などにもよるが、片浦中学校に進学希望者は4名のみで、進学準備もあるので早い段階で統合を決定して欲しいとのことでした。

小学校の保護者からは、「少人数で目の届いた教育が期待できる近くの

中学校に通わせたいが、著しく生徒数が少ない状況では教育的に不安である。」、「今の状況では進学する中学が分かれてしまう。地域の一体感の観点からも同じ中学に通えるようにすべき」、「交通の利便性、通学の安全性から城山中学と統合すべき」などの意見がでています。また、中学校の保護者からは、「現在の中学校2年生は高校受験もありこのまま片浦中で卒業したい。」、「学習面等少人数の優れたところはあるが、多様な人間関係を築く教育等デメリットもあり、部活動以外の理由でも通学区の弾力化を認めるべき。」、「地域の子どもたちが中学生でバラバラになることが問題であり城山中と統合すべき。」、「現在もそうだがこの地域の家庭は通学費の負担が大きすぎる。」などの意見が出ています。また、地域からは、「中学校はやむを得ないが、地域の幼児の数が減っており、小学校が無くならないよう、今からしっかり対策を立てるべき。」、「地域の活性化が課題だ。」などの意見が出されています。7月2日には、第5回のあり方を考える委員会で加藤市長との意見交換会を開催しましたが、学校が無くなることへの抵抗感はあるが、子どもたちへの教育を考えると閉校はやむを得ない状況であるという意見が大勢でございます。昨日は、第6回目の会議を開き、大体の方向が見えてきました。今後、あり方を考える委員会では2回ほど会議を開催し、8月の半ばを目途に提言書をいただける予定でございます。

教育委員会としては、あり方を考える委員会から提言書が提出されましたら、基本方針どおり、子どもの幸せを第一に考えるとともに、地域の意見を最大限に尊重してまいりたいと考えております。この後、議会での予算案の審議や学区審議会への諮問、条例案の手続き等、来年の4月に間に合わせるためには、厳しい日程ですが、地域の意見を聴きながら手続きを進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(質 疑)

安藤委員長...閉校となる場合の生徒の扱いはどのようになるのでしょうか。

教育政策課長...現2年生は、受験が控えているので、閉校は来年度ではなく、22年度になろうかと考えております。

安藤委員長...現1年生は2人だけということで、果たして教育的効果が得られるのでし

ようか。学習は緻密になるでしょうが、子どもの成長の上で、人との関わりあい成り立っているのでしょうか。地域の思いもあるのでしょうか、子どものことを第一とした場合、現状についてもう少し考えるべきと思います。

学校教育部長...この2人は、本人側の意思が強く、このような形となっておりますが、保護者やあり方を考える委員会から、城山中との交流を進めてほしいとの要望も出ており、そうした対応もしなくてはならないかなと考えています。

安藤委員長...何を学び、学ばせるか、ということでしょうか、難しい問題ですね。

青木教育長...学校の統廃合は、教育効果という面から、教育委員会として基本的姿勢を持った上で保護者や地域の方と相談をするのですが、学校への地域の思いが強い場合があり、教育効果の面だけでは決められないところがあります。学校が地域の拠点という意識もあるので、地域の意見を最大限尊重しながら進めてきたところです。

安藤委員長...修学旅行も2人では「家族旅行」になってしまいますし、運動会もまた同じで、教育的効果がやはり薄まってしまうと思います。

青木教育長...ただ、今回は、小規模校状態はなくそうという方向性は地域でも出ておりますので、2人という現状は経過的なものと考えています。

安藤委員長...どこに重点を置くのかを考えてほしいと思います。

(その他質疑・応答なし)

小田原市社会教育委員会議からの提言書の提出について(生涯学習政策課)

生涯学習部次長...報告事項 「小田原市社会教育委員会議からの提言書の提出について」ご説明申し上げます。お手元の資料2をご覧ください。この提言書は、平成16年8月から平成18年7月の間に、前期の社会教育委員によって行われました市内の社会教育事業に関する調査研究を引き継ぎ、平成18年8月から今期の社会教育委員が行ってこられました「次世代育成」をテーマとした調査研究に基づき、作成されたものでございます。今期の調査研究では、社会教育委員が、「地域」「学校」「行政」の3つの分科会に分かれ、それぞれの主体で行われている「次世代育成」に関する行事やイベント等に直接参加し、主催者や参加者の生の声を聞きながら、

現状や諸課題を抽出、分析し、発展、改善のための案を、提言書本編 11 ページから 13 ページにございます提言としてまとめられたものでございます。この 12 ページの中ほどには「次世代育成の推進には地域、学校、行政の三者が協働しなければならない。特に地域の協力が欠かせない」「事業・行事は、次世代育成の手段として必要不可欠である。中でも地域の特性や伝統を継承している地域行事は、世代間交流の最有力手段である」「事業・行事は、現在減少・縮小化の傾向がみられるが、やり方次第で成果が変わるので、企画運営に携わる人材の育成が急務である」とあり、こうした共通認識のもとに、社会教育委員会議は、教育委員会に対して、次世代育成を推進していくための横断的な担当課の設置を提言しております。

この提言書につきましては、去る 7 月 18 日に、今期の社会教育委員を代表して、3 名の委員が来庁され、教育長に提出されましたが、その際に、この提言書の活用について強い要望がなされました。教育委員会事務局といたしましても、この提言書の内容を尊重し、全庁的な周知をするなどし、各部局の事務事業に反映されるよう努めていく考えでございます。

(質 疑)

安藤委員長...素晴らしい提言とは思いますが、その前にゲーム機器を何とかしないといけないのでは。個々の遊びで横のつながりがなくても平気でいられることが、世代間交流や地域活動から子どもを遠ざけていると思います。本当に魅力を感じさせる行事等が出てくれば違ってくるのではと思います。

青木教育長...ゲーム機器による人間関係の希薄化がある中で「地域行事は、世代間交流の最有力手段である」という提言がありますし、また「学校教育におけるボランティアを推進するよう対応しなければならない」という提言もいただいております。教育委員会からの諮問ではありませんが、実質的にそれに近い調査研究がなされていると感じます。

安藤委員長...少子化が進む中で、こうした取り組みを進められればと思います。

(その他質疑・応答なし・協議会を終了)